

1. 概要

現在、白井市では急速に外国人住民の人口が増えており、こうした外国人と在住日本人がストレスなく地域社会で暮らしていける環境の構築が急がれている。地域の安定・安心を醸成する一助として地域に在住する外国人と日本人が気軽に出会い、おしゃべりをしながら互いを知ることのできる交流の場を、市や地域のコミュニティー活動グループと共に構築を行なった。当初、地域コーディネーターの役割も十分理解できていなかったが、ファシリテーターのアドバイスなども頂きながら活動テーマをまとめ第1回目の交流イベントを開催することができたので以下に報告する。

2. 白井市における日本語学習支援活動

千葉県白井市において国際交流を担う白井国際交流協会の傘下である日本語部会が市からの委託を受け、白井日本語教室を運営し、地域の外国人に対して日本語学習の支援を行っている。

日本語部会の学習者は60名弱、支援者の数は私を含め16名が活動を行っている。

3. コーディネーターの役割に気づくまで

本研修を始めた頃はまだ地域日本語教育コーディネーターの役割をまだ十分理解できていなかった。そのため課題の設定にあたっては最初はつい目先の教室内の課題、具体的には増大する学習者に対する支援者不足への対策という方向に目が向いてしまった。勿論、これ自体も解決すべき課題ではあるが、色々と研修を受講し、アドバイスを頂く間にコーディネーターとしてはもっと広い視点で地域の日本語に関わる課題に取り組むべきでは、と改めて考え直した。そうしてみた場合、実は地域全体の外国人を取り巻く状況が自分自身に見えておらず、また行政との連携も十分ではないため、取り組むべき課題もはっきりしないことに気づかされた。そこでまず市在住の外国人をとりまく状況を知るために情報収集を行い、現時点で実現可能で優先的に取り組むべき課題を抽出し、その課題の解決に向けた実践活動を行うこととした。

4. 活動目標の設定

活動を進めていくにあたり、まず自分自身を関係者、関係機関に知ってもらうことが必要と考え、さらに本研修のファシリテーターの方からもアドバイス頂き、情報収集の活動を9月より開始した。9月20日に市の多文化共生の推進を担う担当部門・企画政策課と、また市内の地域交流を推進サポートする「しろい市民まちづくりサポートセンター」（通称“まちサポ”）の皆さんと9月21日にそれぞれ面談をさせて頂き、お話を聞かせて頂いた。こうした活動を踏まえて、以下の情報を確認することができた。

- ① 2022年度に白井市が在住の外国人に対して実施したアンケートの分析し以下に着目。
 - ・ 近隣の日本人との交流に関して、53.6%が「日本人と交流している」と回答した一方、**34.8%の外国人が「日本人と交流したい」と回答**。また自由コメントで「日本人の友達をつくりたい」との意見も見られた。
 - ・ 日本語教室の認知度に関して、68.1%が「日本語教室を知らない」と回答。
- ② 市の担当者より外国人支援事業の目的や多文化共生へのビジョンをヒヤリング
 - ➔ 市の支援事業の目的は「外国人市民が言葉や生活習慣の違いにより生活に困ること

なく、安心して快適な生活ができるようにする。」というやや一般的な内容であるが、実際の会話の中では**外国人と地域の交流**に大きな期待があることがわかった。

③ まちサポの役割と協働の可能性

➔ まちサポにおいても**外国人を巻き込んだ交流の推進に期待**があることを確認

上記、外国人の状況、行政の期待、協力できるパートナーの存在を踏まえ、まず優先的に**広く外国人と地域日本人住民との交流を図りながら、双方が互いを知ることのできる場を構築することを活動として設定した**。そしてこうした場での交流を通じ、両者がストレスなく暮らせる地域づくりの一助となることを目指していきたい。

5. 交流イベントの立ち上げ

(1) イベントの企画

10月11日には国際交流協会、まちサポ、コミュニティー誌の編集者も参加し、企画を検討した。

- ・ 交流会の名称を“**Oh♪しゃべりあ〜も**”と決定。
- ・ 自由に外国人と日本人がお茶を飲みながら気楽に日本語でおしゃべりのできる場を提供。
- ・ 場所は市の庁舎内の多目的スペースを利用。
- ・ 広報はまちサポが広報誌やネットで案内すると同時に国際交流協会の人脈で口コミでも広げる。実際のイベントの様子は後日コミュニティー誌で取り上げてもらう。

(2) “Oh♪しゃべりあ〜も”の開催

関係各位のご協力、ご支援のもと2023年12月17日に第1回“Oh♪しゃべりあ〜も”を開催した。

当日はスタッフを除いて40名を超える（日本人21名、外国人20名）参加者があり、皆でコーヒーを飲んだりお菓子を食べながら楽しくおしゃべりの時間を過ごした。来訪者の国を壁に貼った地図にマークしたり、各国の言葉で「こんにちは！」や「ありがとう」を書いてもらったりしながらお互いの国の様子を紹介しあう光景も見られた。また白井市の笠井市長も飛び入りで参加頂き、本イベントの意義をお話して下さったことは行政との連携という面で意義深い。参加した外国人にとっても市長と話ができただけが嬉しかった、とのコメントもあった。近隣の日本人高校生や外国人家族の子供達も参加して一緒にイラストを描いて楽しんでおり、幅広い層の人達に参加頂けたと実感している。参加者にアンケート調査を行ったところ90%以上の方々がまた是非参加したいとの回答があり今後も継続して開催しながら交流の輪を広げていきたいと考えている。本イベントは交流の場というだけでなく、日本語を学びたい外国人への日本語教室への入り口、また日本語教室である程度日本語が話せるようになった外国人へのアウトプットの場にもなり、地域の日本語教育活動とも連携させていきたい。

6. 実践活動を振り返って

当初は活動の方向が定まらず苦慮していたが、自分自身を知ってもらいネットワークを広げていく中で次第に色々な情報が集りだし、何をすべきか、どんなリソースがあるのか、というのが少しずつ見えてきた。そういう意味で研修の中でも強調されていたネットワークを広げる、ということの重要性を感じている。今回、研修で学んだことを活かしながら今後も地域の多文化共生社会の実現に向けて活動を続けていきたい。

以上。